

鶏卵調達 2年ぶり一部輸入に

液卵大手、価格高騰受けマレーシアから

鳥インフルエンザの影響などによる鶏卵相場の高騰に対応するため、業務用液卵製造大手のイフジ産業（福岡県粕屋町）は今年度、原料の鶏卵を2年ぶりに輸入している。全体の5%ほどをマレーシアから調達する予定で、9月までに約2千トンを輸入した。

2025年9月中間決算の会見で明らかにした。液

卵はパンやケーキ、ハンバーグ、かまぼこなど様々な食品の製造に使われる「食の半導体」（藤井宗徳社長）。

鶏卵不足で液卵供給を制限する同業他社もあり、イフジへの注文は増加。4～9月の液卵事業の販売数量は同時期としては過去最高の約3万3千トン、売上高も過去最高の約160億円だっ



た。

藤井社長は「鶏卵は慢性的に不足している。供給が改善するとは思えない」と話し、今後も輸入を増やす方針だ。

鶏卵はこのところ、国際的にも品薄で高値が続いているという。やはり鶏卵不足だった2年前、

イフジが輸入したブラジル産は今回、米国からの引き合いが強いという。そのため、イフジは今回、調達先をマレーシアに切り替えた。

藤井社長は「当面、鶏卵の価格高騰は続く」とみるが、「鳥インフルが落ち着いたら、暴落するリスクをはらんでいる」と懸念する。「大手の製パン会社などに、卵を使わない製品にシフトする動きが見られる。頭が痛い問題」

（小陳勇一）